

KIKUCHIJO

鞠智城

東京シンポジウム



平成26年7月27日(日)

時間 10:30~16:30

場所 明治大学 アカデミーコモン・アカデミーホール
(東京都千代田区神田駿河台1-1)

鞠智城
イメージキャラクター
ごろう君



主催／熊本県・熊本県教育委員会 共催／明治大学日本古代学研究所
後援／明治大学博物館 熊本県文化財保護協会 朝日新聞社

鞠智城東京シンポジウム

律令国家の確立と鞠智城
～698年「繩治」の実像を探る～

一 日 程 一

10:00	開場	
10:30	開会あいさつ	
	熊本県知事 蒲島 郁夫	
	来賓紹介	
10:40	報告	
	「鞠智城跡の調査と成果～鞠智城「繩治」について～」	10:40～11:00
	矢野 裕介（熊本県教育委員会 歴史公園鞠智城温故創生館）	
11:00	基調講演	
	「律令制国家の成立と鞠智城」	11:00～12:00
	吉村 武彦（明治大学文学部教授）	
12:00	昼休み	12:00～13:10
	※12:10頃からアトラクション	
13:10	講演	
	「大宰府防衛体制と鞠智城」	13:10～13:50
	小田 和利（九州歴史資料館学芸調査室長）	
	「鞠智城「繩治」の歴史的背景」	13:50～14:30
	森 公章（東洋大学文学部教授）	
14:30	休憩	14:30～14:50
14:50	パネルディスカッション	14:50～16:20
	コーディネーター 佐藤 信（東京大学大学院教授）	
	パネラー 吉村 武彦（明治大学文学部教授）	
	小田 和利（九州歴史資料館学芸調査室長）	
	森 公章（東洋大学文学部教授）	
	矢野 裕介（熊本県教育委員会）	
16:20	閉会あいさつ	
	明治大学大学院文学研究科長（日本古代学研究所副代表） 石川 日出志	

日時：平成26年7月27日（日） 10:30～16:30

場所：明治大学アカデミーコモン・アカデミーホール

主催：熊本県・熊本県教育委員会

共催：明治大学日本古代学研究所

後援：明治大学博物館 熊本県文化財保護協会 朝日新聞社

主催者あいさつ

鞠智城東京シンポジウムに多数の皆様に御参加いただき、心からお礼を申し上げます。

熊本県には、この鞠智城をはじめ、様々な歴史的、文化的、伝統的な宝があります。本県では、この“熊本の宝”を磨き上げ、後世につないでいきたいという思いで、全国に向けた情報発信をはじめ様々な取組みを行っています。その一環として、昨年度に引き続き東京でのシンポジウムを行うこととしました。

鞠智城がある菊池川流域は、全国一の数を誇る装飾古墳をはじめ、朝鮮半島との文化的交流を通じて優れた古代文化が花開いた地域であります。そして、約1300年前、7世紀後半の激動する東アジア情勢の中で、大和朝廷によって築かれた鞠智城は、「六国史」に記載された古代山城の一つに数えられる全国有数の重要遺跡として高く評価されています。

熊本県では、昭和42年から継続して鞠智城の発掘調査を実施して参りました。その32次にわたる調査の結果、八角形建物跡や貯水池跡など数多くの重要な遺構が相次いで発見されました。平成20年10月に出土した百済系銅造菩薩立像は、百済の高級官僚が日本の古代山城の築城に関与したとする「日本書紀」の記述を裏付ける重要な資料として、国内外において大きな注目を集めたところです。

これまでに蓄積された成果を広く公開するため、平成24年には鞠智城のこれまでの発掘調査や整備事業を総括した2冊の報告書を刊行し、今年3月には研究論文をまとめた『鞠智城跡II—論考編1—』を刊行しました。また、シンポジウムや講座など様々な機会を通じて鞠智城の歴史的価値の認知度や知名度の向上を図ってきたところです。

昨年7月に東京で、9月に大阪でそれぞれ鞠智城シンポジウムを開催ましたが、大変多くの方に御参加いただき、鞠智城に対する関心の高まりを実感しているところです。

本日のシンポジウムでは、最新の新しい調査結果等々も含めて、先生方から様々な切り口でお話を伺いできると思います。皆様方には鞠智城とその時代に心を馳せ、鞠智城への関心をさらに深めていただければ幸いです。本県でも学術的価値や認知度を高めていくため、首都圏での活動に今後も引き続き努めて参りますので、よろしく御願い申し上げます。

最後に、本日御参加の皆様の御健勝、御活躍を申し上げ、挨拶といたします。

平成26年7月27日

熊本県知事 蒲島都夫

報告者・講演者・コーディネーター紹介

【報告者】

矢野 裕介（やの ゆうすけ）

同志社大学文学部卒業。熊本県文化課を経て、現在、熊本県立装飾古墳館分館「歴史公園温泉創生館」文化財整備交流課長。鞠智城発掘調査に従事。

【講演者】

吉村 武彦（よしむら たけひこ）

東京大学文学部国史学科卒業後、東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。東京大学文学部助手、千葉大学教養部講師、千葉大学助教授、千葉大学教授を経て、現在、明治大学文学部教授。日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『日本の歴史3 古代王權の展開』、『日本古代の社会と國家』、『古代天皇の誕生』、『日本社会の誕生』、『聖德太子』、『古代史の新展開』など多数。

小田 和利（おだ かずとし）

奈良大学文学部史学科を卒業。福岡県教育委員会文化課勤務を経て、現在、九州歴史資料館学芸調査室長。専門は日本考古学。主な論文に、「神籠石と水城大堤—水城の築堤工法からみた神籠石の築造年代についてー」、「朝倉橋広庭宮と親世音寺一宮の所在地についての再検討ー」、「水城大堤の築堤年代についての一私論」、「須恵器擂鉢について」、「磐瀬宮における諸問題」など多数。

森 公章（もり きみゆき）

東京大学文学部国史学科卒業後、同大学院博士課程単位取得退学。奈良国立文化財研究所文部技官、高知大学人文学部助教授を経て、現在、東洋大学文学部教授。専門は日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『古代日本の対外認識と通交』、『「白村江」以後』、『古代郡司制度の研究』、『長屋王家木簡の基礎的研究』、『地方木簡と郡家の機構』、『歴史文化ライブラリー 古代豪族と武士の誕生』など多数。

【コーディネーター】

佐藤 信（さとう まこと）

東京大学文学部国史学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。奈良国立文化財研究所（平城京跡発掘調査部）研究員、文化庁文化財調査官、聖心女子大学文学部助教授、東京大学文学部助教授を経て、東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は日本古代史。博士（文学）。主な著書は、『日本古代の宮都と木簡』、『古代の遺跡と文字資料』、『出土史料の古代史』、『律令国家と天平文化』、『古代の地方官衙と社会』など多数。

（発表順・敬称略）

鞠智城跡の調査と成果

～鞠智城「縕治」について～

矢野 裕介（熊本県教育委員会）

1 鞠智城跡の概要

鞠智城は、東アジア情勢が緊迫する7世紀後半、朝鮮半島における白村江の敗戦（663）を契機に北部九州の防衛拠点として構築された古代山城である。『続日本紀』文武天皇2（698）年5月条「大宰府をして、大野・基跡・鞠智の三城を縕治せしむ」を初見とし、『日本文徳天皇実錄』天安2（858）年2月・6月条の「菊池城院」、『日本三代実錄』元慶3（879）年3月条の「菊池郡城院」など、国史に記載のある城である。

その城跡は、熊本県の北部、阿蘇北外輪山から有明海へと西流する一級河川菊池川（総延長72km）の中流域、山鹿市、菊池市の市境に位置する。県境を限る筑肥山地の主峰、八方ヶ岳（標高1,052m）南西麓に形成された丘陵地帯の南端近く、中心標高145m前後の台地状の丘陵上（通称：米原台地）に立地し、南には菊池川沿いに発達した肥沃な菊鹿盆地が広がる。古代律令制下、肥後國菊池郡に属し、城跡周辺に残る「木野」地名から、『和名類聚抄』にみる「城野郷」に比定されている。

鞠智城跡の城域については、古くから広域説、狭域説が論じられてきたが、現在では、狭域説のうち、土星線と崖線で囲繞する周長3.5km、面積55ha、標高90～171mの範囲を真の城域〔第1図〕とし、それを包括する約64.8haが国史跡に指定されている。

六国史にみる鞠智城 *「国史体系」吉川弘文館

甲申。令^ヲ大宰府^ニ縕^サ治^ム大野。基跡。鞠智三城。
（書き下し文）

「甲申、大宰府をして大野・基跡・鞠智の三城を縕治めしむ。」

〔続日本紀〕文武天皇2（698）年五月二十五日条

内辰。肥後國言。菊池城院兵庫鼓自鳴。丁巳。又鳴。
（書き下し文）

「丙辰、肥後國言す、菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」

「丁巳、又鳴る」

〔日本文徳天皇実錄〕天安1（858）年二月二十四・二十五日条

肥後國菊池城院の兵庫鼓自鳴。同城不動倉十一字火。
（書き下し文）

「肥後國菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴る」

「同城不動倉十一字火く」

〔日本文徳天皇実錄〕天安1（858）年六月二十日条

肥後國菊池郡城院兵庫戸自鳴。
（書き下し文）

「肥後國菊池郡城院の兵庫の戸自ら鳴る」
〔日本三代実錄〕元慶3（879）年三月十六日条



第1図 鞠智城跡

鞠智城跡の発掘調査は、昭和 42 (1967) 年度の第 1 次調査から平成 22 (2010) 年度までに 32 次を数える。これまでに、古代山城では唯一の八角形建物跡をはじめとする 72 棟の建物跡 [写真 1] や 5,300 m² の規模を誇る貯水池跡、外郭線上に城門の門礎石、版築工法による土塁跡などの遺構が検出され、城の構造解明が進むとともに、須恵器、土師器などの土器や単弁八葉蓮華文軒丸瓦をはじめとする瓦類、建築用材、木製品に加え、『秦人忍口五斗』銘の付札木筒や百濟系の銅造菩薩立像など [写真 2] が出土している。



※建物跡が白く点々と見える

写真 1 鞠智城跡・長者原地区全景（平成 9 年度撮影）



単弁八葉蓮華文軒丸瓦

木製品（平鍵・横樋）

土師器

写真 2 鞠智城跡の出土遺物

2 時期区分と変遷

鞠智城跡は、7世紀後半から10世紀中頃まで存続し、その間、役割・機能を変化させながら5期（鞠智城Ⅰ～Ⅴ期）に及ぶ時期区分と変遷が明らかになっている。

【鞠智城Ⅰ期（7世紀第3四半期～第4四半期）】

鞠智城の創建期。創建年代を、『続日本紀』文武2（698）年に「繕治」した大野、基肆の2城の創建（665）とほぼ同時期と推定している。外郭線上に3箇所の城門、土塁線、城内に掘立柱建物、貯水池などを緊急的に整備し、城としての最低限の機能を備えた段階と考えられる。



写真3 鞠智城Ⅰ期の遺構

【鞠智城Ⅱ期（7世紀末～8世紀第1四半期前半）】

鞠智城の隆盛期。「コ」字形に掘立柱建物を配置した管理棟的建物群〔第2図〕が出現し、その南側に八角形建物〔写真4〕や総柱建物を配置するなど、城内施設の充実が図られる。当該期の土器の出土量も多く、城の管理・運営に多くの人員が配置されたものと考えられる。

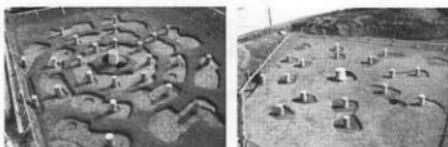


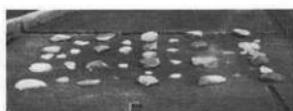
写真4 鞠智城Ⅱ期の遺構



第2図 管理棟的建物群

【鞠智城Ⅲ期（8世紀第1四半期後半～第3四半期）】

鞠智城の転換期。城内の建物配置はⅡ期を踏襲しながらも、総柱建物が小型礎石を使用した礎石建物〔写真5〕にて替えられる。出土土器の空白期に当たることから、城の存続上必要な最小限度の維持・管理がなされていたものと考えられる。



65号建物跡（次の鞠智城Ⅳ期の礎石建物跡と重複しており、小型の礎石のほうが65号建物跡）

写真5 鞠智城Ⅲ期の遺構

【鞠智城Ⅳ期（8世紀第4四半期～9世紀第3四半期）】

鞠智城の変革期。管理棟の建物群の消失や貯水池中央部の機能低下がある一方、Ⅲ期の礎石建物が大型礎石を使用した礎石建物〔写真6〕に建て替えられ、食糧等の備蓄機能が主体となる。これら建物群は、当該期末に焼失しており、『文徳実録』天安2（858）年の不動倉火災との関連が想定される。



20号建物跡

写真6 鞠智城Ⅳ期の遺構

【鞠智城Ⅴ期（9世紀第4四半期～10世紀第3四半期）】

鞠智城の終末期。城内の建物数は減少し、城の機能は低下するものの、大型の礎石建物を建て直すなど、食糧等の備蓄機能は存続する。



【各期における建物跡の種別】

- 鞠智城Ⅰ期（掘立柱）
- 鞠智城Ⅱ期（掘立柱）
- 鞠智城Ⅲ期（掘立柱、礎石）
- 鞠智城Ⅳ期（掘立柱、礎石、礎石・掘立柱併用）
- 鞠智城Ⅴ期（礎石）

第3図 建物遺構の変遷

3 鞠智城「繕治」の様相

鞠智城跡における鞠智城II期は、年代的に『続日本紀』文武2(698)年5月条の鞠智城「繕治」の前後に当たる。

鞠智城II期は、城内施設に総柱建物が少なく、小型の側柱建物が多く配置した鞠智城I期に対して、I期とは異なる主軸方向を持つ官衙的な建物群（管理棟的建物群）の出現や、その南側に八角形建物、総柱建物等を配置するなど、城内施設の配置が大きく変化することが特徴として挙げられる。また、日常什器となる土器の増加も特徴として挙げられ、城内施設の変容とともに、人員を多く配置するなど、城の管理・運営に何らかの変化が生じた可能性が指摘できる。

こうしたことから、鞠智城の「繕治」は、単なる城の修理・補修だけで捉えられるものではなく、城の役割・機能、そして城の管理・運営の変化を伴うものであったものと考えられる。

4 まとめ

鞠智城跡の変遷については、鞠智城III期前半まで大宰府政府跡の変遷とほぼ連動していくことが指摘されており、このことは、少なくもその時期まで、鞠智城が「大宰府」との密接な関係のもと機能していたことを示すものである。こうした観点も踏まえて、鞠智城「繕治」の歴史的背景を考えていく必要があろう。

【参考文献】

熊本県文化財調査報告第276集『鞠智城跡II - 鞠智城跡第8~32次調査報告 -』熊本県教育委員会 2012

		鞠智城跡の変遷		関連事項
		鞠智城I期		
7C 3		孤立柱建物の建築 城門の構築（深迫・堀切・池/尾門） 野水池の造成 土壘壁の構築		・自村江の敷設（663） ・猪人・俸置設（664） ・尾門・堀切築成（665） ・太尉・稚媛築城（665） ・金田・尾門・高安城築城（667）
4				・大野・基跡・鞠智城築治（698） ・福猪・三野邑築治（699） ・高安城築城（699-700） ・高安城遷城（701）
8C 1		建物配置の変更		・高安因茨城・常城抄み（719）
2		礎石建物の出現		
3				
4		鞠智城IV期 礎石建物の大型化 池中心部開拓		・肥後國が大隅に昇格（795）
9C 1				
2				
3		鞠智城V期 礎石建物の再建		・菊池城記・兵庫銀鏡・不動寺11 宇火（838） ・肥後山口本源源資（839） ・菊池城記・兵庫銀鏡（879）
4				
10C 1				
2				
3		廢城		

律令制国家の成立と鞠智城

吉村 武彦

はじめに

日本列島では、7世紀後半、内外にわたって激震があった。663年（天智2）、当時の倭国は「百濟救援」に向かったが、朝鮮半島における白村江の戦いにおいて、百濟・倭国連合軍は新羅・唐軍に大敗した。ここに百濟国は最終的に滅亡したが、「國が滅びる」という事実を体験することになった。しかも、この敗戦は唐の外寇に備える体制の構築を迫られることになった。

統いて、673年（天武元）、近江朝の大友皇子軍と天智天皇の弟大海人皇子軍との間に、壬申の乱が勃発した。大海人軍が勝利したが、戦いの最中、大友側は筑紫大宰栗隈王に兵を起こす命令を伝えに行つたが、大海人側という栗隈王は「筑紫国は、元より辺駿の難を成る」と述べ、出兵させられなかつたといふ。

このような内外にわたる戦いによって、朝廷は「政の要是軍事にある」ことを認識せざるをえなくなつた。とりわけ白村江の敗戦は、旧来の国造軍による戦闘体制の改変を余儀なくさせることになった。日本古代の軍事制度は、こうした経験を経て具体化されていったと思われる。

唐律令を導入し、律令制国家を建設していくことが始まり、氏姓制・官人制の整備を急ぎ、やがて淨御原令の施行（689年）、戸籍の作成（庚寅年籍、690年）、藤原宮遷都（694年）と歴史は動いていく。大宝令以前に、兵政官（後の兵部省）・兵衛・兵庫職（後の兵庫寮）や兵士はまちがいなく存在していたが、淨御原令に軍防令の篇目があったといふ確かな証拠はない。

ところで、『日本書紀』持統3年閏8月条に、戸令による戸籍（庚寅年籍）の作成と、各國における武事教習が指示されているように、造籍と兵士制とは強い関係があると想定される。また、福岡県太宰府市の国分松本遺跡から出土した、戸籍関連の木簡に「兵士」の記載があり、戸籍と兵士制とが密接な関係にあることが判明した。こうした戸籍や兵士は、戸令・軍防令に規定されており、その内実は律令法の規定そのものである。

本報告では、こうした律令法制に基づく律令制国家の成立に焦点をあて、鞠智城縛治の意味を説いていきたい。

I 講演の趣旨

一 鞠智城の初見記事

1. 『続日本紀』文武2年（698）5月25日条「大宰府をして、大野・基肄・鞠智の三城を縛治はしむ」である。ただし、大野・基肄城は、『日本書紀』天智4年8月条に「達率億礼福留・達率四比福夫を筑紫国に遣して、大野及び捺（基肄）二城を築かしむ」とあるが、鞠智城はみえない。
2. 鞠智城の記載がないのは、①単なる脱漏なのか、あるいは②大野・基肄城とは性格が異なるからなのか。また、大宰府関連の山城でも、阿志岐山城（奈良時代は蘆城か）のように、国史に登場しない山城もある。
3. その逆に、9世紀後半の六国史に「菊池城（兵庫）」の記載がみえる。

二 鞠智城の発掘調査が示す事実

1. 発掘調査の報告書『鞠智城跡 II』によれば、鞠智城は

第1期 7世紀第3四半期～第4四半期

創建期

第2期 7世紀末～8世紀第1四半期前半

コの字型建物群、八角形建物。土器等の遺物出土量が多く、内部施設が充実化。

第3期 8世紀第1四半期後半～第3四半期

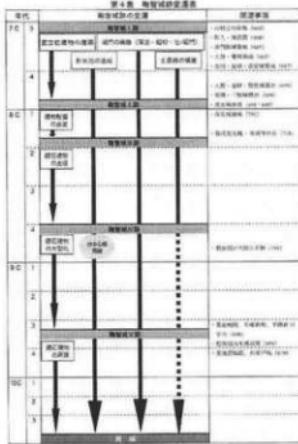
礎石建物出現

第4期 8世紀第4四半期～9世紀第3四半期

礎石建物の大型化

第5期 9世紀第4四半期～10世紀第3四半期

倉庫機能



『鞠智城跡 II』論考編 1

に時期区分ができる。この結果によれば、第2期が文武2年条の時期にあたり、第1期は天智朝に関係する。

2. 出土した百濟系銅像菩薩立像は、第1期である。
3. 第2期に出現する八角形建物が、遺跡にとって重要。八角形の建物は、前期難波宮（孝徳朝）や法隆寺夢殿、地方では三軒屋遺跡（上野国佐位郡衙正倉）などにみられる。また、天皇陵古墳にも八角形墳がある。
4. 遺跡の性格は、政府のような施設という（西谷正「鞠智城と菊池川文化」）。

三 文献と考古学的発掘調査から、何を読み取るのか。また、どのような論点があるのか、史料と発掘調査の成果から考えてみる。

1. 文武2年前後の歴史の流れを、どのように理解するのか。
2. 天智朝と文武朝（淨御原令制期）の築城・繕治の労働力はどのようにになっているのか。また、兵士の徵発はどうか。防人との関係を含め、律令制の成立とどのように関わっているのか。
3. 南島への覇国使派遣は、どこから出港するのか。
4. 唱更国（薩摩国）の建国とは、関係しているのか。
5. 国分松本遺跡出土木簡に、新史実はあるのか（鞠智城の築城と兵士・政丁）。
6. 九州島における律令制支配－薩摩国・大隅国・南島政策との関係。

II 律令制と軍備

一 兵士徵発と戸籍

- (1) 天武朝（持続3年以前）

*人夫から徵発

- * 指揮具・大型武器は郡家（評家）所蔵
- (2) 浄御原令制下の戸籍 （美濃国戸籍に一部影響か）
 - * 兵士制（兵士と政丁）
 - * 軍團制を志向するが、未整備。
- (3) 大宝令戸籍 （西海道戸籍）
 - * 兵士は「丁（正丁・少丁）」から徵發
 - * 軍團制
- (4) 養老5年籍式戸籍 （下総国戸籍）
 - * 正丁兵士制

二 軍團制と律令法

(1) 軍制の特徴と律令法

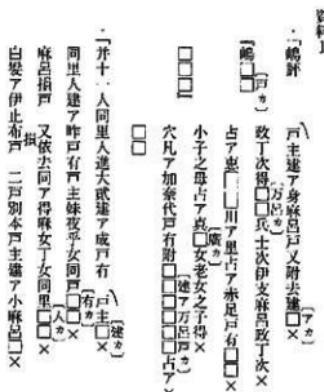
- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 大化以前 | 國造軍（軍士制） |
| ② 大化改新 | 武器收公・兵庫建設政策、評造軍 |
| ③ 白村江の戰い以降の天智朝軍制 | 朝鮮式山城等の防衛策 |
| ④ 壬申の乱と天武朝 | 「畿内官人武装策」と儀仗兵制の整備 |
| ⑤ 浄御原令制 | |
| ⑥ 大宝令制 | |
- (2) 城柵
- * 城柵官衙遺跡 越後、東北
 - * 城 西日本
- (3) 律令法と城柵と兵士
- * 養老律衛禁律24越垣及城条 「筑紫城」
 - * 養老軍防令53城隍条 「役兵士修理」

三 薩摩国・大隅国の建国と南島覓国使

四 国分松本遺跡出土木簡

- (1) 鳴評戸口変動記録木簡
- * 兵士と政丁
- (2) 兵士優先の戸籍作成

むすびにかえて



【年表】

- 663 天智 2 白村江の戦いで大敗。
- 664 天智 3 唐使郭務悰が、表面・献物を進上する。対馬島・壱岐島・筑紫国等に防と烽とを置く。筑紫に水城を築く。
- 665 天智 4 長門国に城、筑紫国に大野・様（基肄）の2城を築く。唐使劉德高・郭務悰と禍軍（旧百濟官人）が、表面を進上する。遣唐使派遣。近江に遷都。唐使が、遣唐使を筑紫に送る。大和国高安城・讃岐国屋島城・対馬国金田城を築く。
- 668 天智 7 天智天皇即位。新羅が調を貢納する。唐が高句麗を滅ぼす。
- 669 天智 8 薩我赤兄が筑紫率。新羅が進調。高安城を修理し、田税を収む。遣唐使を派遣。唐使郭務悰ら2000人が遣わされるか。
- 670 天智 9 戸籍（庚午年籍）を作り、盜賊・浮浪を断つ。遣新羅使。新羅が高句麗王を冊立（唐・新羅の対立）
- 671 天智 10 冠位・法度を施行（「近江令」の存否）。唐使が上表。天智天皇没。
- 672 天武 1 壬申の乱。大海人皇子が近江朝廷軍を破る。
- 673 天武 2 大海人皇子が即位（天武天皇）。
- 675 天武 4 栗隈王を兵政官長とする（栗隈王は壬申の乱時に筑紫大宰）。畿内諸王・有位者に武装させる。〔676, 679, 684, 685, 693, 699, 700〕
- 676 唐が朝鮮半島支配を放棄する。
- 681 天武 10 諸王・群卿の鞍馬を検校する。
- 683 天武 12 諸国に詔して、陣法を習わせる。
- 684 天武 13 文武官人の威儀（乗馬・兵、装束）を整える。
- 685 天武 14 軍用の楽器・兵器の私家所蔵をやめ、郡家に收める。
- 686 朱鳥 1 天武天皇没。持統皇后称制。
- 689 持統 3 浄御原令（22巻）施行。戸籍作成（庚寅年籍）。兵士への武事教習。
- 690 持統 4 持統天皇即位。
- 693 持統 7 諸国に陣法博士を遣わし、兵法を教習させる。
- 694 持統 8 藤原宮遷都。
- 698 文武 2 南島に使を遣わし、国をもとめさせる。大宰府に、大野・基肄・鞠智三城を緒治せしむ。
- 699 文武 3 南島より帰る。大宰府に、三野・稻積二城を修せしむ。
- 700 文武 4 筑紫惣領に、菟國使を脅迫した薩末比売、衣評督・助督、肝衛難波を処罰させる。〔菟國使は698年の遣使か、新たな遣使か〕
- 701 大宝 1 大宝律令（律6巻、令11巻）完成。
- 702 大宝 2 命に逆らう薩摩・多恵を征討し、戸を校へ吏を置く。〔国司・島司〕唱更国司ら「国内要害の地に柵を建て、戍を置きて守らむ」と言う。大隅国を置く。
- 713 和銅 6 菩提老律令（律10巻、令10巻。施行は757年（天平宝字1））
- 718 菩提老 2 備後国安郡茨城、蘆田郡常城を停する。
- 719 菩提老 3 怡土城を築く。
- 756 天平勝宝8

【参考文献】

- 大高広和「八世紀西海道における对外防衛政策のあり方と朝鮮式山城」
『鞠智城と古代社会』1、2013年
- 菊池達也「律令国家成立期における鞠智城」『鞠智城と古代社会』2、2014年
- 木村龍生「鞠智城の役割に関する一考察」『鞠智城跡』II、2014年
- 熊谷明希「文武朝における「薩摩隼人」の征討と唱更國の成立」『歴史』121、2013年
- 坂上康俊「鳩評戸口変動記録木簡をめぐる諸問題」『木簡研究』35、2013年
- 下向井龍彦「日本律令軍制の形成過程」『史学雑誌』100-6、1991年
- 鈴木拓也「軍制史からみた古代山城」『古代文化』61-4、2010年
- 西谷 正「鞠智城と菊池川文化」『菊池川流域古代文化研究会だより』19、2007年
- 吉永匡史「律令軍團制の成立と構造」『史学雑誌』116-7、2007年
- 吉村武彦「「淨御原朝庭の制」に関する二・三の考察」『日本古代の国家と王権・社会』
 塙書房、2014年
- 熊本県教育委員会『鞠智城跡 II』2014年
- 熊本県教育委員会編『鞠智城を考える』山川出版社、2010年
- 熊本県教育委員会『鞠智城を考える II』2012年
- 熊本県教育委員会『ここまでわかった鞠智城』2013年

大宰府防衛体制と鞠智城

小田 和利（九州歴史資料館）

1 I期大宰府の成立

(1) 齊明天皇の征西と朝倉宮

1) 齊明天皇

※皇極天皇・齊明天皇として二度皇位につく。百濟復興のため征西し、朝倉宮を築造したもののそこで崩御する。天智・天武天皇の母親でもある。

2) 朝倉宮：正式名称は、朝倉橘廣庭宮（あさくらのたちばなのひろにわのみや）

※齐明天皇7年(661)、百濟復興に關連して築造された仮宮で、宮の推定地として1.旧朝倉町須川、2.同山田、3.旧杷木町志波地区、4.小郡市上岩田遺跡、5.大宰府政庁跡がある。

3) の志波地区（現朝倉市杷木志波）は三方を山で囲まれた約1km四方の範囲で、南西には筑後川が流れる天然の要害であり、7c後半代の建物群も存在することから宮の最有力候補地。
①志波台地建物群：掘立柱型式の大規模な建物群

杷木宮原遺跡3棟・志波桑ノ本遺跡3棟・志波岡本遺跡4棟・大迫遺跡9棟

杷木宮原遺跡1号建物…梁行2間(4.6m)×桁行6間(12.96m)

②宮関連地名：宮原・宮下・政所・落中（洛中？）・殿策・出廠越・橋田

③観世音寺との関連：「観世音寺資財帳」（延喜5・905年）の水田章に杷木田・高山田の記載があり、薩摩49町のうち約半分の25町6歩が大宝2年(702)に観世音寺に施入された。

3) 齊明天皇の征西

〔征西ルート〕（宿在日数）

12/24(14)	1/6	1/8	1/14(68)	3/25	3/25(45)	5/9(76)
難波宮 → 難波津 ~ 大伯海 ~ 石湯行宮 ~ 那大津 → 筑瀬宮 → 朝倉宮 飛鳥川原 ← 難波津 ~ 長津(那大津) ← 長津宮(磐瀬宮) ← 朝倉宮・齐明崩御						
11/7	10/23	10/7		8/1(67)		7/24



征西ルートと古代山城の分布

(2) I期大宰府の成立

①筑紫大宰・筑紫大宰帥(率)・筑紫都督府・筑紫率・筑紫總領・大宰府・大宰帥

宰(みこともち)：天皇の命を受けて任国に下り、地方の政務を司った官人

大宰・總領：地方行政上重要な地域に置かれ、数ヶ国を包括する広い地域を統括する地方行政長官。筑紫大宰の他に吉備大宰・周防總令・伊予總領が存在したが、大宝令の施行とともに廃され、大宰帥のみ残った。

②筑紫大宰(つくしのおおみこともち)…推古17年(609)初見～持統4年(690)

③筑紫大宰帥(つくしのおおみこともちのかみ)…大化5年(649)・持統3年(689)

④筑紫大宰府(つくしのおおみこともちのつかさ)…天智10年(671)

⑤筑紫大宰府典(つくしのおおみこともちのつかさのふびと)…持統5年(691)

「直廣跡筑紫史益」筑紫大宰府典に押されしより以来、今に29年」

・筑紫史益は、29年に及ぶ清白忠誠の勤務により恩賞を賜る。

→663年(天智2)には、官司としての大宰府が存在

⑥筑紫都督府(つくしのおおみこともちのつかさ)…天智6年(667)

⑦筑紫率(つくしのかみ)…天智7年(668)・天智8年(669)・天智10年(671)

⑧竺志惣領・筑紫總領(つくしそうりょう)…文武4年(700)

⑨大宰府(おおみこともちのつかさ)…天武6年(677)・文武2年(698)・文武3年(699)

⑩大宰帥(おおみこともちのかみ)…大宝2年(702)～

⑪大宰系官職は淨御原令制以前にも存せず、「總領」の語を「大宰・大宰府・大宰帥

(率)」に書き改めた。
〔直木孝次郎〕

⑫筑紫大宰の官名は、筑紫大宰→筑紫大宰率(帥)→筑紫總領→大宰帥へ変更された。

⑬筑紫大宰は、百濟の役後の朝鮮・中国を巡る東アジアの国際緊張に対処するための軍事的官司として機構化された。唐・新羅との使節の往来が再開されると外交の出先機関としての、西海における地方統治組織としての役割を増大することになった。〔八木充〕

⑭那津官家の機能や機構などを継承し、それを官制的に発展させ、その管掌者の官職名として筑紫大宰が創設された。
〔倉住靖彦〕

2) 大宰府政府跡

所在地：福岡県太宰府市觀世音寺〔都府樓跡〕

立地：大城山(標高410m)より派生した月山・藏司丘陵に挟まれた沖積段丘上

遺構：3時期の遺構が存在

I期(7c後半～8c初頭) - 据立柱建物 *軍事的施設？

四面廊建物SB121・側柱建物SB122・總柱建物SB123・櫛SA110他

II期(8c前半～10c頃) - 磁石建物 朝堂院形式 *西海道を總監する官衙

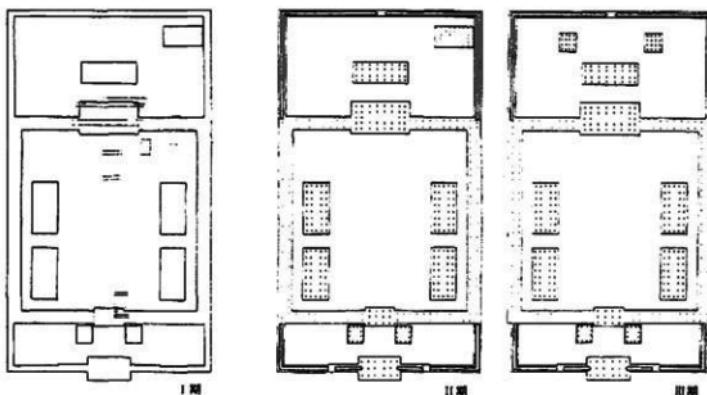
正殿・後殿・脇殿・南門・中門・回廊・築地

→藤原純友の乱(天慶4・941年)で焼失

III期(10c後半～12c前半頃) - 磁石建物 朝堂院形式 *被災後の再建建物

正殿・後殿・脇殿・南門・中門・回廊・築地

規模：南北214.15m、東西119.2m(III期)

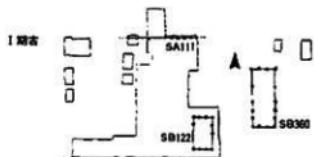


政府建物変遷（『大宰府政府跡』）

3) I期造構

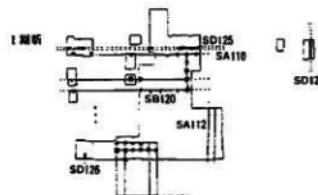
I期古段階（白村江戦直後）

側柱建物SB122・360
櫛SA111



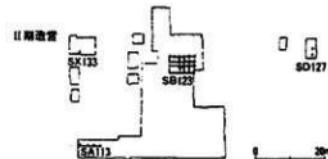
I期新a段階（7c第4四半期前半）

四面廊建物SB121
長棟建物SB120
櫛SA110
溝SD125・127



I期新b段階（7c第4四半期後半）

櫛SA112
溝SD126



II期造営段階（8c第1四半期初頭）

総柱建物SB123
櫛SA113

I期造構変遷図（『大宰府政府跡』）

4) 大宰府の機能

- ①対外交渉 蕃客…諸国使節に関すること。客館が那津口に設けられた鴻臚館
帰化…帰化人の措置に関すること
接待…外国使節及び渡来者の接待に関すること
- ②西辺防備 防人司が管掌し、防人は対馬・壱岐・筑紫国の沿岸防備の任に就く。
・水城・大野城などの防衛施設は、有事に備え長期間維持管理された。
- ③西海道諸国島の統監

2 大宰府防衛体制の構築

(1) 水城・大野城・基肄城・鞠智城の登場

1) 水城

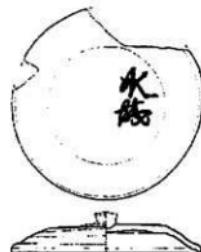
①「対馬嶋・壱岐島・筑紫国等に防と烽とを置く。又、筑紫に大堤を築きて水を貯えしむ。名けて水城と曰ふ」

『日本書紀』天智3年(664)是歲条

築造年：天智3年(664)

築造者：不明

名 称：水城(みずき)



井戸SE065出土「水城」銘墨書き土器

2) 大野城・基肄城

①「秋八月に達率答林春初を遣して、城を長門国に築かしむ。達率憶禮福留・達率四比福夫を筑紫国に遣して、大野及び様二城を築かしむ」『日本書紀』天智4年(665)8月条
築造年：天智4年(665)8月 →着手は天智2年9月末。約2年

築造者：百濟高官憶禮福留・四比福夫…天智10年(671)大山下(從六位下)を授かる。

憶禮福留は、余自信・木素貴子・谷那督首等と白村江敗戦翌月の天智2年(663)9月25日に日本軍とともに来日

名 称：〔大野城〕

大野城(おおののき)

『日本書紀』

大野山(おおのやま)・城山(きのやま)・大城乃山(おおきのやま)『万葉集』

大城(おおき)

墨書き土器銘

→大規模な山城であることから付けられた名称

〔基肄城〕

様城(きのき)『日本書紀』

基肄城(きいのき)『続日本紀』

記夷城(きのき)『万葉集』



不丁官衙構SD2340出土「大城」銘墨書き土器

②「高安城を修りて、板と鹽とを積む。又、長門城一つ、筑紫城二つを築く」

『日本書紀』天智9年(670)2月条

※筑紫城二は、大野城・基肄城を指し、又以下は天智4年条の重出記事

3) 鞠智城

①「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を縷治はしむ」『続日本紀』文武2年(698)5月条
※鞠智城の初見記事。築造年・築造者は不詳であるが、出土品(百濟系軒丸瓦・銅造菩薩立像)から大野城と同時期とみられる。

築造年・築造者：不詳

名 称：鞠智城(くくちのき)『日本書紀』

菊池城(くくちのき)『日本文德天皇実録』

(2) 大宰府防衛施設

1) 水城跡

*水城は長さ約1.2kmの長大な土塁で、東の四王寺山と西の背振山系からびた丘陵を繋ぐ形で横たわり、交通の要衝である福岡平野南端の狭隘部を塞ぐ。



水城断面模式図（『大宰府と多賀城』）

①構造

- 土塁…長さ約1.2km・幅約80mの基底部に基部幅20~22m・高さ7~9mの土塁本体を構築
 - ・土塁本体は博多側に幅5mのテラスを有し、約70°の傾斜角で立ち上がる。
 - ・基底部の盛土は雑であるが、土塁本体の盛土は版築工法 → 水城二段階築造説
 - ・基底部盛土中に粗朶（枝葉）を敷く。

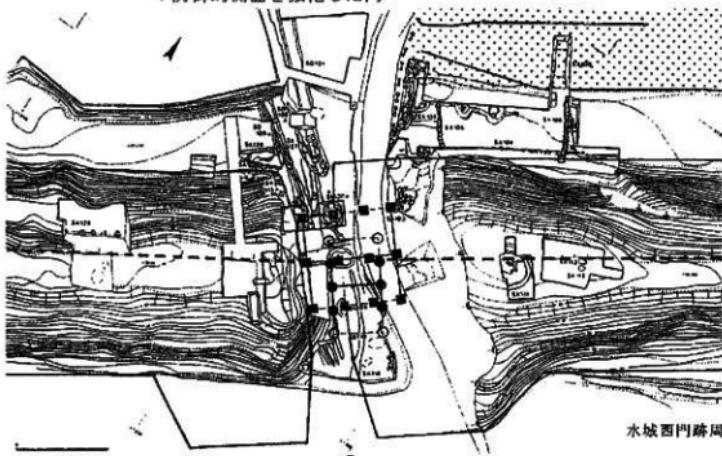
- 木柵…基底部下位に長さ79.5mの木柵（内法：幅85cm・高さ80cm、杉・檜材）を埋設
 - ・旧国道3号線西側（東門跡西側）とJR鹿児島本線東側及び同西側の計3箇所で確認
 - 外濠…土塁の博多側に外濠（長さ約1km・幅約60m・深さ約4m）が存在
 - ・外濠は東西門建物の内側で終わり、門建物の前面には路面が連続する。

- ②門建物…土塁の東西両端に門を設置 東門：旧国道3号線側、西門：太宰府市吉松の市道
・西門跡では3時期の門変遷が判明

I期（7c後半）—SB120A 捆立柱式・唐居般門礎（柱間4.22m、杉材）…冠木門
*防衛機能を重視した堅牢な門

II期（8c前半）—SB120B 瓦葺礎石建物（2×3間、10×10m）…八脚門
*大宰府の表玄間にふさわしい壯麗な門

III期（9c代）—SB110 瓦葺礎石建物（1×4間、5.4×10.4m）…樓門
*防衛的側面を強化した門



水城西門跡周辺図

2) 大野城跡

※大野城は水城築造(664年)の翌年に、大宰府政庁背後の四王寺山(標高410m)に築かれた古代山城で、尾根線を周囲約6.2kmの土塁で繋ぎ、谷部には石壠を設けている。城内からは70棟程の礎石建物(倉庫)が発見されており、籠城としての性格を有する。



大野城跡全図（太線：土塁、■：建物　『大野城跡Ⅳ』）

①構造

土壘…尾根線を馬蹄形に繋ぎ、外郭線約6.2km、基部幅11.4m・高さ6.4mの規模で、北側と南側は二重に巡らす。土壘本体は版築工法により外壁は70°の傾斜角をもつ。

櫓…土壘頂部に柱列（柱径約20cm）を1~2m間隔で設ける。

石壘…谷部には石を積み上げ、6箇所の石壘が知られる。通常、石壘基部には水門を設けるが、屯水石垣を除き水門を設けておらず、自然排水としている。

②城門…土星線の南に5箇所（太宰府口・坂本口・水城口・原口・觀世音寺口）と北側に4箇所（宇美口・北石垣・小石垣・クロガネ岩）設ける。

・北石垣城門跡からは、鉄製軸受け金具（長さ26cm・重さ12.8kg）が出土

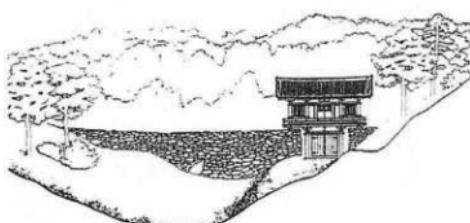
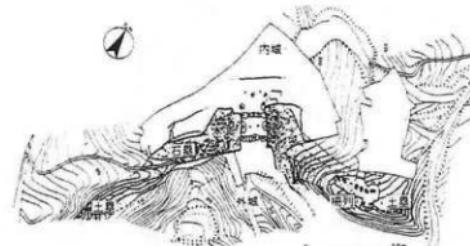
③建物…城内の8地区において礎石総柱建物（倉庫）を主体とする建物が70棟程存在

・建物は掘立柱建物から礎石建物へ移行 *主城原SB064-天智4~9年の築造

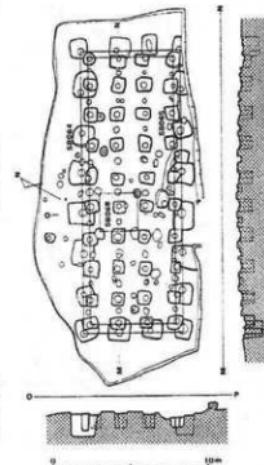
④井戸等 ケイサシの井戸：石組井戸、深さ1.64m

鏡ヶ池：皿状の窪地、溜井

持国天の溜井

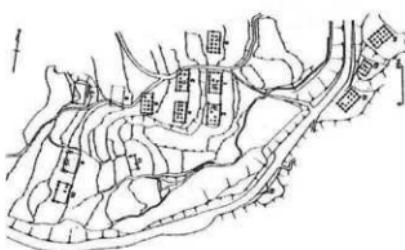


大野城跡太宰府口城門復原図
（『発掘が語る遠の朝廷 大宰府』）



主城原地区掘立柱建物SB064・065・068

（『大野城跡III』）



八ツ並地区礎石建物配置（『大野城跡I』）



主城原地区出土軒丸瓦（『大野城跡VII』）

3) 基跡城跡

※基跡城は、大野城と同時期に大宰府政府南方約10kmの基山（標高404.5m）一帯に築かれた古代山城で、尾根線を周囲約4.4kmの土塁で繋ぎ、谷部には石壁を設ける。城内から40棟程の礎石建物が発見されており、大野城同様籠城としての性格を有する。



基跡城全体図（『大宰府都城の研究』）

①構造

土壘…全長約4.4km（東西幅1.21km、南北長2.72km）、高さ約2m、基部幅約2.5m

・土壘内側の平坦地は幅10m以上あり、西辺土壘内側平坦面には敷石を施す。

石壁…南側の谷部には石壁を設ける。

南門石壁：全長26.0m・幅10.9m・高さ8.5m、下部に水門を設置

水門西方石壁：長さ約3mと小規模

仏谷石壁：現状で長さ4m・高さ4.2m、土壘の切れ目→通路

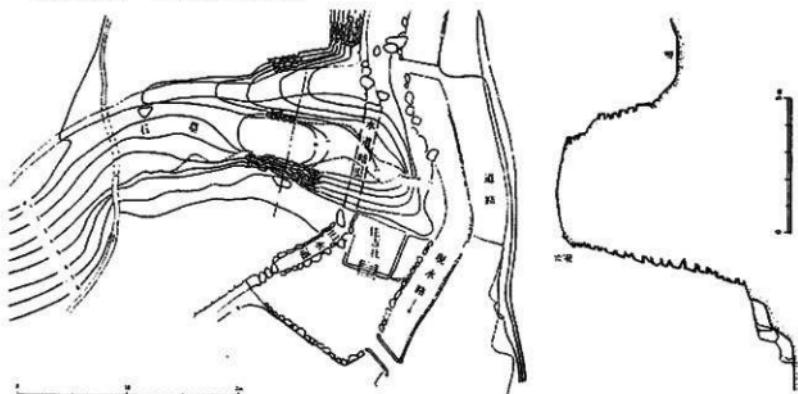
②城門…4箇所（北門・東北・仏谷・南門跡）に城門を設置するが、西辺部には未設置

・東北門跡：掘立柱型式門礎、円形刺込一柱径40cm、軸受穴間隔-1.9m

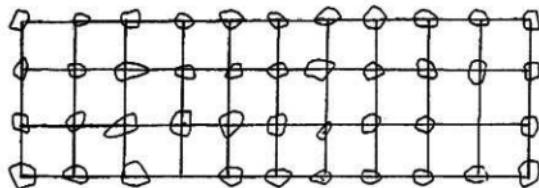
③建物…城内には3×5間を主体とする礎石建物約40棟が7群に分かれて分布

・大礎石群：梁行3間(9.0m)×桁行10間(28.4m) *長倉型式

④貯水施設 つつみ跡：雨水溜



南門石壁（『大宰府都城の研究』）



礎石建物（①大礎石群、②・③米倉礎石群）



出土軒先瓦（『基跡城跡』）

・為研給筑前筑後肥後等国造基跡城城植板隨大監正六上田中朝口

4) 阿志岐城跡

※阿志岐城は平成11年に発見された古代山城で、大宰府政府南東約5kmの宮地岳（標高338.9m）の山腹に築かれており、土星・石星が確認されている。

①構造

土星…南西部に土星は存在しないが、尾根線を城域と推定すると総延長3.67km

・土星は内托法により、基部に1~2段列石を据える。

石星…石星が3箇所存在し、谷部を閉塞。石橋等の施設は未確認

②城門…未確認

③築造時期と目的

名称：蘆城（あしき）？『万葉集』

築造年：不詳

時期：第3水門出土土器-8c 中頃

目的：蘆城駅家（御笠地区遺跡群）との関連

・筑後平野北半部の防衛拠点

・田河道に面し、古代官道を押さえる



(3) 大宰府羅城

1) 大宰府防衛プラン

※都府楼跡には、天智6年(667)11月条に「筑紫都督府」と記される軍事的な施設（大宰府政庁Ⅰ期建物）が存在していた。

→磐渦宮（長津宮）の機能移転

※筑紫率一栗前王（天智7・668年）・蘇我赤兄（天智8・669年）・栗隈王（天智10・671年）

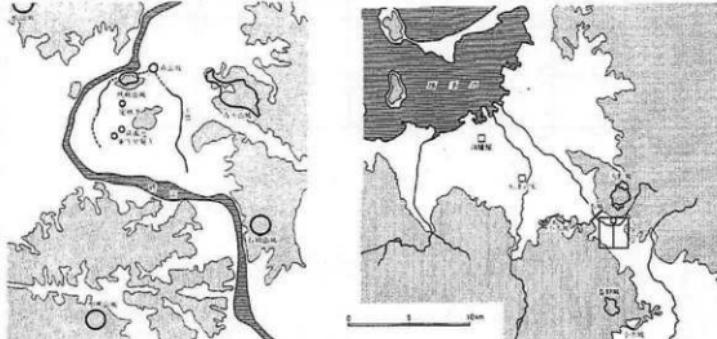
※大宰府の防衛には、北の守りとして大野城があり、南の守りとして基肄城がある。玄界灘方面からの侵攻に対しては水城大堤・小水城が存在する。この3拠点間は山が連なり、自然の要害をなす。→大宰府羅城

*羅城—古代都市の城の外郭

・難波羅城（天武8・679年）11月条 『日本書紀』

「この月に、初めて闕を龍田山・大坂山に置く。仍りて難波に羅城を築く」

※大宰府防衛プランには、百濟亡命官による百濟扶余の防衛体制が反映された。



百濟扶余防衛体制と大宰府防衛施設位置図（岩波書店『古代日本を発掘する4』）

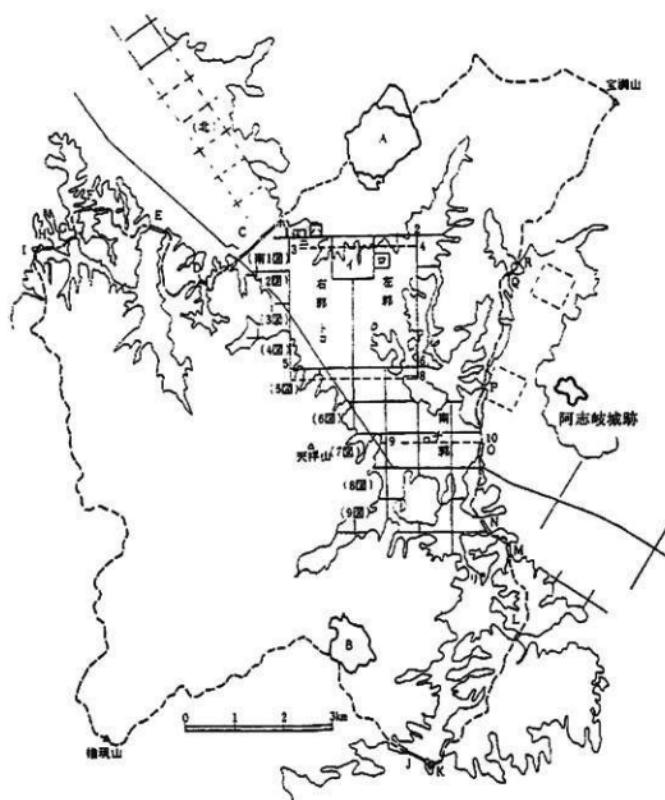
2) 阿部義平氏の大宰府羅城説

※ 大野城・水城・基跡城を自然地形を介した城壁とみなす。

大野城 - 水城 - 大堤 - 小水城 - 稲縫 - 基跡城 - とうれぎ土星 - 関屋土星 - 稲縫 - 大野城

問題点: 大野城・基跡城以東においては、土星は未確認

・新発見の阿志岐山城は、土星想定地外に存在



A 大野城	H 天神山土星	ハ 筑前御分寺	1 ~ 2 扇郭北限(阿部版)
B 基跡城	I 天神山土星	ニ 筑前御分尼寺	3 ~ 4 扇郭北限(扇山版)
C 水城	J とうれぎ土星	ホ 水城東門	5 ~ 6 扇郭南限
D 上大利土星	K 関屋土星	ヘ 水城西門	(扇山・阿部版)
E 奉日土星(准)	L ~ R 土星逆定地	ト 「一ノ上」地名	7 ~ 8 扇郭南限
F 小倉土星(准)	イ 府序	チ 「八ノ江」地名	(日野1974・沢村説)
G 大土星	ロ 観世音寺	リ 筑紫神社	9 ~ 10 日野(1974)説里界線

大宰府羅城内の構成 (『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集)

3 大宰府と鞠智城

(1) 大宰府の関与

◎『続日本紀』文武2年(698)5月甲申条

「大宰府をして大野・基肄・鞠智の三城を繕治 はしむ」

繕治：修繕して治すこと

◎『日本文德天皇実錄』天安2年(858)6月条

「大宰府言す。…肥後国菊池城院の兵庫の鼓自ら鳴り、同城の不動倉十一宇を火く」

不動倉：不動穀（非常米）を貯えた倉庫

・鞠智城について大宰府が報告を行っている →大宰府の関与

(2) 鞠智跡の特異性と性格

1) 立 地…他の古代山城と立地が異なる

・有明海から約30km内陸の丘陵部に位置し、大宰府からは約65の距離

2) 築城記事…築城に関する記事がない

・鞠智城の初見は、『続日本紀』文武2年(698)5月甲申条の繕治記事

3) 特殊な遺構・遺物

・八角形建物は日本の古代山城で初めての発見例 →韓国二聖山城に類似

・百濟系銅造菩薩立像 *百濟との関連

4) 性 格

①大宰府の後方支援

- ・兵站基地としての役割
- ・国防の最南端拠点 →有明海方面からの進入を阻止

②九州南部統治の拠点

- ・隼人計略のための防衛施設
- ・九州南部統治
- ・行政施設 →九州南部に向かう古代官道の存在

③古代官衙

- ・官衙の建物群の存在 -長者原地区60~63号掘立柱建物
- ・荷札木簡の存在 -1号木簡「秦人忍口五斗」長さ13.4cm・幅2.6cm, ヒノキ製
- ・天安2年(858), 元慶3年(879)「菊池城院」
 - *院とは郷と郷の中間地点に設けられた官営の倉庫群で、税の保管と管理を行う
 - *税を徴収する行政的な機能を備え持つ城塞

④百济との深い関係

- ・百济仏、八角形建物、百济系軒丸瓦（単弁八弁蓮華文・蓮子1+6）
- *秦氏は百济系の渡来氏族とされている

⑤性格の変容

- ・存続期間で性格が変化したとの考え方
 - I (7c代) : 古代山城として築城され、有明海方面に対する防衛拠点
 - II (8c代) : 律令制の浸透により南部九州を見据えた官衙的性格が増大
 - III (9c代) : 有明海防備の拠点施設 →新羅の政情が不安定となり、海賊が横行

鞠智城「繕治」の歴史的背景

森 公章（東洋大学文学部教授）

□鞠智城の初見記事（修繕記事）

（史料1）『続日本紀』文武2年（698）5月甲申条

令大宰府繕治大野・基肆・鞠智三城。

□鞠智城跡の遺構編年：I期（7世紀第3四半期～第4四半期）・創建期／II期（7世紀末～8世紀第1四半期前半）・隆盛期／III期（8世紀第1四半期後半～8世紀第3四半期）・転換期／IV期（8世紀第4四半期～9世紀第3四半期）・変革期／V期（9世紀第4四半期～10世紀第3四半期）・終末期

…II期は城を管理する「管理棟的建物群」や八角形建物が建設され、城内施設の充実が推進され、土器などの日用什器の出土も最も多く、城の管理・運営に多くの人員が配備される。

I 古代山城は完成していたのか

□古代山城の完成度（図1）【亀田2014】

完成していたと思われる山城…筑前大野城跡、肥前基肆城跡、対馬金田城跡／肥後鞠智城跡、備中鬼ノ城、豊前御所ヶ谷神籠石／（備前大廻小廻山城、伊予永納山城、讃岐屋嶋城）／《河内高安城跡》

未完成の可能性がある山城…豊前唐原山城跡、筑前阿志岐城跡、筑前鹿毛馬神籠石、筑後女山神籠石、肥前おつぼ山神籠石、播磨城山城跡、周防石城山神籠石、讃岐城山城跡／（筑前把木神籠石、筑後高良山神籠石）

□白村江戦後の朝鮮半島情勢の推移

表1 朝鮮半島情勢略年表（○は月不明を示す）

665年…8月：熊津にて新羅・百濟の盟誓

668年…9月：高句麗滅亡／○：新羅、百濟へ侵攻

669年…5月：新羅、唐へ謝罪使派遣／末：鉗卒率、唐に叛する

670年…5月：新羅、百济へ侵攻／8月：金馬堵に小高句麗國成立

671年…7月：新羅、所夫里州設置／○：新羅、湯井州設置／○：新羅、所夫里州總管設置、百濟民を白衿誓轉に編成

672年…7月：新羅の阿凌大吐が唐について叛乱を謀るが、誅殺される／8月：新羅、西海を鎮守／○：新羅、來投百濟人に内外官を授ける

674年…1月：唐、文武王の官爵を奪う

- 675年…2月：唐、新羅の謝罪により官爵を復す／○：新羅、百濟の地を取る
- 676年…11月：新羅、所夫里州伎伐浦で唐軍と戦う
- 677年…3月：新羅、所夫里州より白麿献上
- 678年…4月：新羅、武珍州都督を任命
- 679年…2月：新羅、耽羅国を攻略し、服属国とする
- 683年…10月：小高句麗国（報德国）滅亡
- 684年…11月：報德国遺民の叛乱平定
- 半島で不利な戦況となった唐の駐留軍やその配下の百濟遺民から倭国に救援要請の遣使
…『日本書紀』天智10年(671)正月辛亥、2月庚寅、6月己巳・庚寅、7月丙午条／
11月癸卯条：使人600人、送使1400人、計2000人・船47隻の一大使節を派遣
…白村江戦の倭軍の捕虜送還・救援の派兵を引き出す方途【松田1980／直木1987】
唐・新羅の侵攻の脅威が去ったと感得／山城による防衛網構築も緊急性が緩む
→672年5月壬申の乱（皇位繼承をめぐる内戦）～
- 修治記事がある山城～高安城の場合～
- (史料2)『日本書紀』天智6年(667)11月是月条
築倭國高安城、讃吉國山田郡屋嶋城、対馬國金田城。
- (史料3)『日本書紀』天智8年(669)8月己酉条
天皇登高安城、議欲修城。仍恤民疲止而不作。時人感而歎曰、寔乃仁愛之德不亦寬乎云々。
- (史料4)『日本書紀』天智8年(669)是冬条
修高安城、収畿内之田税。
- (史料5)『日本書紀』天智9年(670)2月条
(上略)又修高安城積穀与塙。又築長門城一・筑紫城二。
- (史料6)『日本書紀』天武元年(672)7月壬子条
(上略)是日、坂本臣財等、次于平石野。時聞近江軍在高安城而登之。乃近江軍知財等來、以悉焚税倉、皆散亡。仍宿城中。会明臨見西方、自大津・丹比両道軍衆多至。顯見旗幟、有人曰、近江將壹伎史韓國之師也。財等自高安城降、以渡衛我河、與韓國戰于河西。(下略)
- (史料7)『日本書紀』天武4年(675)2月丁酉条
天皇幸於高安城。
- (史料8)『日本書紀』持統3年(689)10月庚申条
天皇幸高安城。
- (史料9)『続日本紀』文武2年(698)8月丁未条
修理高安城(天智天皇五年築城也)。
- (史料10)『続日本紀』文武3年(699)9月丙寅条
修理高安城。
- (史料11)『続日本紀』大宝元年(701)8月丙寅条

廢高安城。其舍屋雜儲物、移貯于大倭・河内二国。

(史料 12) 『続日本紀』和銅 5 年 (712) 正月壬辰条

廢河内国高安烽、始置高見烽及大倭国春日烽、以通平城也。

(史料 13) 『続日本紀』和銅 5 年 (712) 8 月庚申条

行幸高安城。

○高安城…税倉があり、穀物・塩などが備蓄／史料 6：近江方の守備兵が配置

○高安城からは西方の様子がよくわかる→瀬戸内海方面の眺望も含めた要衝の立地

○その後も天武・持統天皇が行幸→大宝令施行時に廢城／烽の機能は残る→平城京遷都によるシステム変更で廃止／元明天皇の行幸記事があり、なお何らかの施設が残ったか

II 総領・大宰と山城

□大宰府が管内の山城を管理【笛山 2010／坂上 2011】

(史料 13) 大宰府政庁跡不丁地区出土木簡（木研 9） S D2340…8世紀中葉に埋没
為班給筑前筑後肥等国遣基跡城稲穀隨（大監正六上田中朝口〔〕 264・34・6 011

□總領・大宰の存在…瀬戸内海地域（除『常陸國風土記』の「惣領自坂巳東之國」）

・吉備…『日本書紀』天武元年 (672) 6 月丙戌条／天武 8 年 (679) 3 月己丑条／『播磨國風土記』飾磨郡広山里条（播磨も管轄）

・周防…『日本書紀』天武 14 年 (685) 11 月甲辰条

・伊予…『日本書紀』持統 3 年 (689) 8 月辛丑条（讃岐も管轄）／持統 5 年 (691) 7 月壬申条／『大同類聚方』卷 15

◎養老 3 年 (719) の按察使

播磨國守が備前・美作・備中・淡路、伊予國守が阿波・讃岐・土佐、備後國守が安芸・周防を所管

□山城と国府

○山城に伴うインフラ整備…道路網の整備など、交通・情報掌握による国家統制の基幹

○讃岐の城山城の麓には讃岐国府／鬼ノ城の麓には備中国府／大廻小廻城も備前国分寺と近い→国郡制支配の中核になる

□總領・大宰の終焉→大宝律令施行により大宰府だけが残る／山城の時代の終わり

(史料 14) 『続日本紀』文武四年 (700) 十月己未条

以直大壹石上朝臣麻呂為筑紫總領、直広式小野朝臣毛野為大式。直広參波多朝臣牟後間為周防總領。直広參上毛野朝臣小足為吉備總領。直広參百濟王遠宝為常陸守。

(史料 15) 『続日本紀』養老 3 年 (719) 12 月戊戌条

停備後國安那郡茨城・葦田郡常城。

III 大宝律令の施行と地方支配の強化

□国郡制の施行と地方支配の強化

表2 大宝前後の地方支配政策

持統8(694)・3・11：評司の初叙規定を定める（→選叙令郡司条）

持統9(695)・3・23：文忌寸博勢らを多禰に遣し、蛮の所居を求めしむ

文武1(697)・10・19：陸奥蝦夷が方物を貢上／12・18：越後蝦夷に賜物

文武2(698)・3・5：因幡国が銅鉛を獻上／9：出雲国意宇郡・筑前国宗像郡の郡司に三等已

上親の連任を許す／10：諸国の郡司を任じ、國司に郡司銓擬方法を指示する／4・13：

文忌寸博士ら8人を南島に派遣し、菟國／6・8：近江国が白樊石を獻上／7・17：伊予国が白錫を獻上／27：伊予国が銅鉛を獻上／9・25：周防国が銅鉛を獻上／28：近江国は金青、伊勢国は朱砂・雄黃、常陸・備前・伊予・日向国は朱砂、安芸・長門国は金青・綠青、豊後国は真朱を獻じさせる／10・23：陸奥蝦夷が方物を獻上／11・5：伊勢国が白錫を獻上／29：下総国が牛黃を獻上／12・5：対馬島に金鉛を治せしむ

文武3(699)・4・25：越後蝦夷106人に賜爵／7・19：多嶺・夜久・奄美・度感等の人が方物を貢上／10・27：巡察使を諸国に派遣して非違を検察せしむ／11・4：文忌寸博士らが南島から帰朝

文武4(700)・2・4：上総国安房郡の郡領に父子兄弟の連任を許す／8：丹波国が錫を獻上／22：巡察使を東山道に遣し、非違を検察せしむ／3・17：諸国に牧地を定めて牛馬を放つ／6・3：菟國使刑部真人らを剽劫した薩摩比売らを決罰

大宝1(701)・4・15：田領を罷めて國司の巡檢に委ねる／6・8：國司・郡司に大税貯蓄の如法を令す／8・25：諸国に衛士を加差させる／9・9：諸国に遣使して産業を巡省し、百姓を賦稅する

大宝2(702)・2・13：大幣班賜のために諸国の国造を入京させる／19：諸国の大租・駅起稿・義倉・兵器の數文を弁官に送らせるに於ける／20：諸国の國師を任命／28：諸国司が初めて鎧を給付され罷かる／3・8：度量を諸国に頒賜／17：越中国4郡を分って越後国に屬す／30：大宰府が所部國掾以下と郡司らを銓擬することを許す／4・13：諸国の国造之氏を定め、国造記に記載／15：筑紫7国と越後国は采女・兵衛を簡点して貢上するものとし、陸奥国はこれらを貢上しないものとする／8・1：薩摩・多嶺が隔離逆命一兵を発して征討し、戸を校じて吏を置く／9・14：薩摩隼人を征した時に祈祷した大宰府管内の9神に奉幣。また鳴更國司（薩摩國司）らが国内の要害に柵を建設し、戍を置いて守備することを求む

（備考）「/」は月の区分、「//」は同月内での日付の区分を示す。

□越後蝦夷・出羽地域への版図拡大→712年出羽国

（史料16）『続日本紀』文武2年（698）12月丁未条

令越後国修理石船橋。

(史料 17)『続日本紀』文武 4 年 (700) 2 月己亥条

令越後・佐渡二国修營石船櫓。

○石船櫓は大化 4 年 (648) 設置→齊明朝の越国司阿倍比羅夫による北方遠征の拠点に

IV 鞠智城緒治の目的

□緒治目的に関する学説

○対隼人政策・南島との通交【菊池 2014／古内 2014】

○大宰府による西海道統治のため施設整備【木村 2014】

…第Ⅱ期(図 2)：兵舎が消失し、防衛機能に関わるものは新設されていない

□隼人対策の様相【土橋 1997／熊谷 2013】

(史料 18)『続日本紀』文武 3 年 (699) 12 月甲申条

令大宰府修三野・稻積二城。

(史料 19)『続日本紀』文武 4 年 (699) 6 月庚辰条

薩末比売・久亮・波豆、衣評督衣君県・助督衣君豆自美、又肝衝難波、從肥人等持兵剽劫免國使刑部真木等。於是、勅竺志惣領、准犯決罰。

(史料 20)『続日本紀』大宝 2 年 (702) 8 月甲申朔条

薩摩・多嶺、隔化逆命。於是発兵征討、遂校戸置吏焉。

(史料 21)『続日本紀』大宝 2 年 (702) 9 月戊寅条

討薩摩隼人軍士、授勲各有差。

(史料 22)『続日本紀』大宝 2 年 (702) 10 月丁酉条

先是、征薩摩隼人時、裨折大宰所部神九処、実賴神威、遂平荒賊。爰奉幣帛以賽其裨焉。

唱更国司等〈今薩摩國也〉言、於國內要害之地建櫓置戍守之。許焉。

□大宰府と鞠智城を結ぶ交通路(図 3)【木本 2014】

□「肥人」の活動(史料 19)から考える

○大平 8 年度薩摩國正稅帳…國府所在の高城郡と出水郡は隼人 11 郡とは区別される存在

○『和名抄』の高城郡の郷名…合志・飽多・宇土・託万あり(図 4 も参照)

○出水郡の郡司…大領肥君、少領五百木部、主政・主帳は大伴部(『大日本古文書』2-20)、

①大伴部：肥後國益城郡の人で相模人の大伴君熊凝(『万葉集』巻 5-886~91 順)

→肥後地域は薩摩國の建国、その後の國府を中心とする統治の中で、重要な役割

□免国使派遣と一体の方策として、九州南部や南島への版圖拡大の課題が設定

→征討に至るか否かは未定であるが、南方への一つの拠点として、鞠智城の整備は必要

薩摩國高城郡の郷名と関係する肥後國の郡名は、いずれも肥後國北半部に所在

南部には隼人と結託する「肥人等」がいたか

□その後の南方政策…日向國の 4 郡を割いて大隅國を建国(『続日本紀』和銅 6 年 4 月乙未

条)、多嶺島への印給付(同 7 年 4 月辛巳条)、南島人の京上(同 7 年 12 月戊午条、靈

龜元年正月甲申朔・戊戌条)

□隼人の最大の反乱と平定

…養老4年(720)には隼人が大隅国守を殺害して大規模な反乱を起こす『続日本紀』

養老4年2月壬子条、3月丙辰条、6月戊戌条、8月壬辰条、11月丙辰条、同5年

7月壬子条、12月乙酉条、同6年4月丙戌条、同7年4月壬寅条)

→以後は隼人の安定した朝貢が確立

(参考文献)

- 岡山県古代吉備文化財センター 2013『鬼ノ城発掘調査報告会 ここまで分かった鬼ノ城』
狩野久 2010『瀬戸内古代山城の時代』『坪井清足先生卒寿記念論文集』
亀田修一 2014「古代山城は完成していたか」
『鞠智城跡II一論考編1—』熊本県教育委員会
木村龍生 2014「鞠智城の役割に関する一考察—熊襲・隼人対策説への反論—」
『鞠智城跡II一論考編1—』熊本県教育委員会
木本雅康 2014「鞠智城西南部の古代官道について」
『鞠智城跡II一論考編1—』熊本県教育委員会
熊谷明希 2013「文武朝における「薩摩隼人」の征討と唱更国の成立」『歴史』121
熊本県教育委員会 2012『鞠智城跡II』(西住欣一郎・矢野裕介・木村龍生編)
熊本県教育委員会 2014『鞠智城跡II一論考編1—』
坂上康俊 2011「文献からみた鞠智城」
『鞠智城とその時代』熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館
笹山晴生監修 2010『古代山城鞠智城を考える』山川出版社
土橋誠 1997「境国使について」『古代の日本と漢文化』学生社
直木孝次郎 1988「近江朝末年における日唐關係」『古代日本と朝鮮・中国』講談社
松田好弘 1980「天智朝の外交について」『立命館文学』415・416・417
村上幸雄・乗岡実 1999『鬼ノ城と大廻り小廻り』吉備人出版
鈴弘道 1982「国司制の成立」『律令国家成立史の研究』吉川弘文館
『鞠智城と古代社会』1(2013)…古川順大 2013「鞠智城が肥後在地社会に与えた影響」
／大高広和「八世紀西海道における対外防衛政策のあり方と朝鮮式山城」／宮川麻紀「鞠
智城築城の背景」
『鞠智城と古代社会』2(2014)…柿沼亮介「朝鮮式山城の外交・防衛上の機能の比較研究
からみた鞠智城」／菊池達也「律令国家成立期における鞠智城—「縄治と列島南部との
関係を中心に—」／古内絵里子「日本における古代山城の変遷」



図1 古代山城の分布

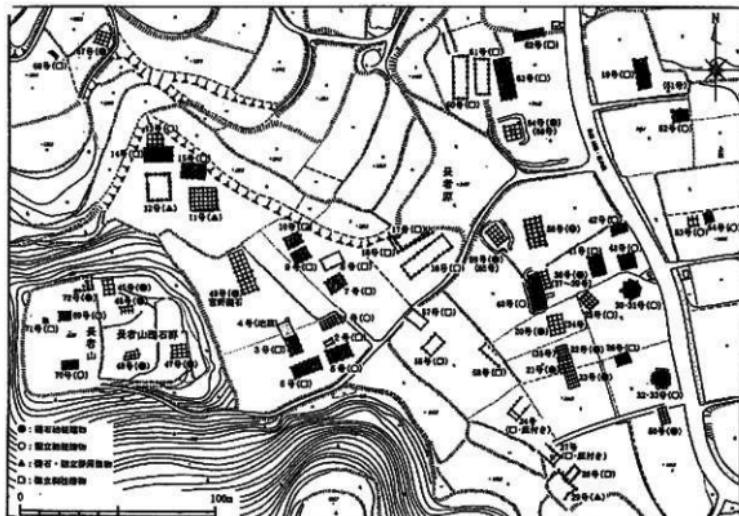


図2 鞠智城第Ⅱ期造構配置図 (『鞠智城跡Ⅱ』による)



図3 大宰府と鞠智城を結ぶ道路網

(笛山晴生監修『古代山城 鞠智城を考える』[山川出版社、2010年] 52頁による)

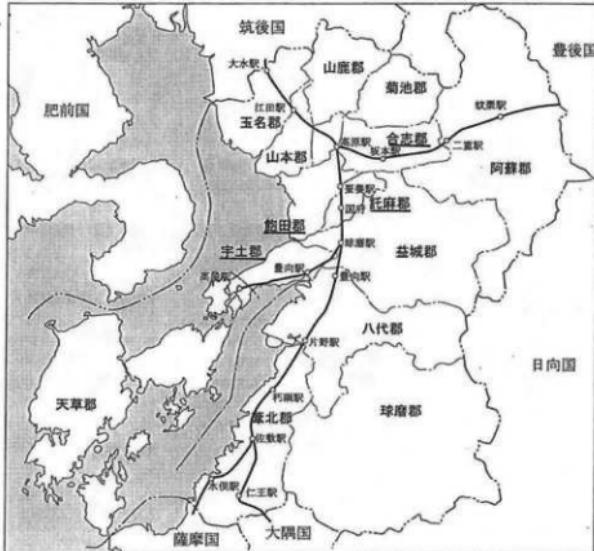
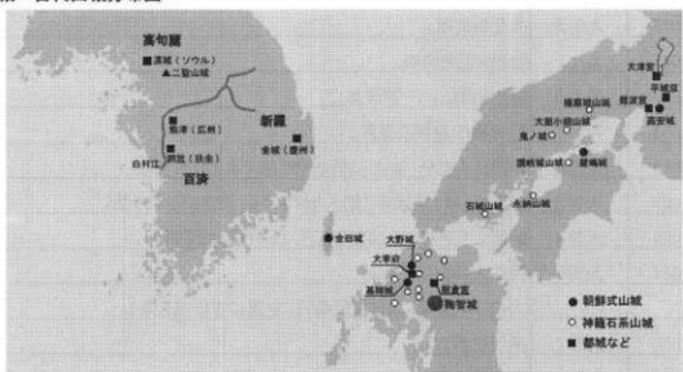


図4 肥後国全体図

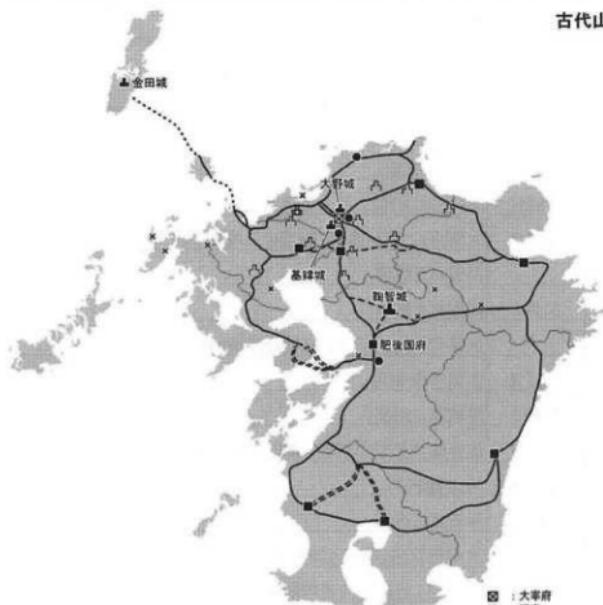
(古代交通研究会編『日本古代道路事典』[八木書店、2004年] 366頁を利用)

参考資料

鞠智城・古代山城分布図



古代山城分布図



- 大宰府
- 国府
- 朝鮮式山城
- ▲ 佐土城
- △ 神羅石
- 宿田
- * 牧（廃止された牧も含む。
日向国を除く。）
- 「延喜式」 路線
- - - 廃止された路線（推測）
- * - 想定される「延喜式」
時代の路線

鞠智城跡関連地図

※日野尚志『古代の官道』

(鞠智城・温故創生館・館長講座資料)

2007 を基に作成。

鞠智城関連年表

西暦	年号	内容
645	大化元	大化の改新。
646	大化2	改新の詔を発布。
660	齊明6	唐と新羅によって百濟滅亡。
661	齊明7	朝倉橋広庭宮に遷宮。
663	天智2	白村江の戦い ※大和朝廷軍が唐の水軍に敗れる。
664	天智3	対馬・壱岐・筑紫等に防人と烽を置く。筑紫に水城を築く。
665	天智4	筑紫に大野城、基肄城を築き、長門国に城を築く。
667	天智6	近江大津宮に遷宮。
"	"	大和に高安城、讃岐に屋嶋城、対馬に金田城を築く。
668	天智7	高句麗滅亡。
669	天智8	高安城修理。
670	天智9	高安城修理。
672	天武元	壬申の乱。
676	天武5	新羅が朝鮮半島を統一。
678	天武7	筑紫国大地震。
694	持統8	藤原京遷都。
696	持統10	※「肥後国」の文献上の初見。
698	文武2	大宰府に大野・基肄・鞠智の三城を総治させる。
"	"	高安城を修理。
699	文武3	高安城を修理。
"	"	大宰府に福積・三野の二城を修理させる。
701	大宝元	大宝律令制定。
710	和銅3	平城京に遷都。
719	養老3	備後国安那郡の茨城、葦田郡の常城を停める。
756	天平勝宝8	怡土城を築く。
794	延暦13	平安京に遷都
799	延暦18	大宰府管内を除いて烽を廃止。
858	天安2	(閏2月)肥後国菊池城院の兵庫の鼓が自ら鳴る。
"	"	(5月)菊池城の不動倉11棟が火災に遭う。
875	貞觀17	カラスの群れが菊池郡倉舎の葦草を噛み抜く。
879	元慶3	肥後国菊池郡城院の兵庫の戸が自ら鳴る。

この電子書籍は、律令国家の確立と鞠智城 鞠智城シンポジウム発表要旨 2014 を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、古代山城がある市町村教育委員会、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：律令国家の確立と鞠智城 698 年「繕治」の実像を探る

鞠智城シンポジウム発表要旨 2014

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL : <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦 2022 年 7 月 21 日